

社会科学学習指導案

日 時 6月16日(火)5校時

学 級 第3学年4組

展 開 3年4組教室

指導者 澤田 健介

1. 単元名 歴史分野 世界恐慌と第二次世界大戦

2. 単元について

本単元では、学習指導要領の歴史的分野の内容(5)のカ「近現代の日本と世界」を取り扱う。経済の世界的混乱から各国が行った政策や国民の生活を通して、軍部の台頭から戦争までの経過と、世界大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させることねらいとしている。

本単元では、第二次世界大戦が起こってしまった理由について各国の立場になって考察することで開戦までの経緯を理解させたい。また、戦時中の人々の暮らしから戦争の悲惨さを理解させ二度と同じ過ちを犯してはいけないという心情も養いたいと考える。また、本年2015年は、第二次世界大戦終戦から70年の節目の年である。先の大戦は、世界各地で何百・何千万人もの死傷者を出した。日本には、原爆も投下され歴史上類を見ない悲惨な戦争であった。しかし戦後70年を迎えた今、このような悲惨な戦争も、未経験の生徒にとっては、遠い過去の記録としてしか、受け止めていないような気がする。世界に目を向けると、戦争や紛争は今も尚続いている状態にある。第二次世界大戦の学習を通して、平和な未来を築き上げていく生徒の育成につなげたい。

20世紀前半は、第一次世界大戦終戦により、列強による帝国主義に終止符が打たれ、国際協調と民族自決の意識が高まった。しかし、世界恐慌という経済の世界的混乱と社会問題の発生によって世界は大きく動いていくことになる。世界恐慌という経済危機に対して大きく二通りの政策（アメリカ、イギリスの対応と日本、ドイツ、イタリアのファシズムの台頭）に別れていき、そのことが第二次世界大戦の原因になってしまった。アメリカでは、ルーズベルトが、ニューディール政策を行い自国での経済回復に努めた。イギリスやフランスは、ブロック経済を行い貿易を基に、経済の交流を活性化させて世界恐慌からの回復を図った。これに対して植民地や資源を持っていない日本、ドイツ、イタリアは他国侵略によって経済復興をめざしていった。日本、ドイツ、イタリア(持たざる国)のファシズムが高まり軍部が台頭することで、イギリス、フランス、アメリカ(持てる国)などの国内政策や植民地、自治領を使った経済復興を目指す国を脅かすことになる。また、自国で復興を目指すソ連も侵略行為に対して警戒を強めていった。ドイツ、イタリアの侵略行為はベルサイユ体制を崩し、各国の利害関係を背景に世界中を巻き込み多くの犠牲者を出した第二次世界大戦へとつながってしまった。

本時では、世界恐慌から回復するために行ったヨーロッパ各国の対外政策と国内情勢、その利害関係からヨーロッパ戦線開戦の理由に迫っていく。その際、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、ソ連の5ヶ国に分けてグループごとに担当国を決めて考える。本校研究の視点2から6人組の少人数グループを活用し、話し合いが活発になるようにしたい。話し合いが活発になるためには、土台となる基本的な知識や思考の根源が大切になると思う。そこで、本時まで、各国の経済復興と対外政策、国内情勢が読み取れる資料を作成し、話し合いの焦点化を図るようにする。また、生徒に読み取らせたいことを年表

や文章、グラフを活用し意図的な資料を作成することで、複雑な社会事象を生徒自身が主体的に学び各国の利害関係から第二次世界大戦の開戦理由を読み取れるようにしたい。まとめの場面では、各国の考えを発表させるが、各国の利害関係から「戦争は仕方なく起きた。」「止めることができなかった。」という意見が予想される。本時では、自国の対策を追究した結果、第二次世界大戦に向かっていってしまうことをつかませたい。

3. 単元の目標

- ・世界恐慌について原因や影響、また各国の政策について関心を持ち意欲的に追究することができる。
(関心・意欲・態度)
- ・世界恐慌から第二次世界大戦開戦までの流れを理解することができる。(知識・理解)
- ・第二次世界大戦の開戦の因果関係を資料から読み取ることができる(資料活用)
- ・軍部が台頭していく日本に対して自分なりの意見を持つことができる。(思考・判断・表現)
- ・太平洋戦争中の日本の行動とアメリカの対応について日本の立場で考え自分なりの意見を持つことができる。(思考・判断・表現)
- ・第二次世界大戦中の国民の生活に関心を持ち意欲的に追究することができる。(関心・意欲・態度)
- ・第二次世界大戦の終戦から戦争に対して自分の考えを持つことができる。(思考・判断・表現)

4. 単元の指導計画(9時間扱い)

時	学習内容と活動	指導や支援の手だて
1	○世界恐慌各国の政策 ・世界恐慌について ・世界恐慌からの経済復興を目指す国について	・世界恐慌からの経済復興を目指す国について理解する。(知識・理解) ・資本主義経済の仕組みを考察して自分の意見を持つことができる。(思考・判断・表現)
2	○世界恐慌と各国の政策 1 ・世界恐慌に対しての各国の政策について	・世界恐慌からの経済復興を目指す国の政策や国内情勢について資料から読み取る。 (資料活用) ・調べたことをまとめ班に伝えようとする ことができる。(関心・意欲・態度)
3	○世界恐慌と各国の政策 2 ・世界恐慌に対しての各国の政策について	・世界恐慌からの経済復興を目指す各国の政策や国内情勢に意欲的に調べる。 (関心・意欲・態度) ・班でまとめた事を自分なりの言葉や文章で説明することができる。 (思考・判断・表現)

4 本時	○第二次世界大戦開戦(ヨーロッパ戦線) ・世界恐慌に対する政策と第二次世界大戦開戦の因果関係について	・第二次世界大戦開戦の理由を理解することができる。(知識・理解) ・第二次世界大戦が開戦した理由について自分の意見を持ち、積極的に班の話し合いに参加できる。(関心・意欲・態度)
5	○日本の軍部台頭 ・満州事変について ・2・26事件について	・満州事変と2・26事件について理解することができる。(知識・理解) ・軍部が台頭する背景について考察し日本の進路に対して自分なりの意見を持つことができる。(思考・判断・表現)
6	○日中戦争 ・日中戦争について ・長引く戦争と戦時体制について	・日中戦争の開戦と内容について理解することができる。(知識・理解) ・日本の戦時体制が高まり、国民生活が統制されていくことについて関心を持っている。(関心・意欲・態度)
7	○太平洋戦争1 ・日本の南進とアメリカの対応について ・太平洋戦争開戦について	・アメリカの対応について理解し、日本の立場で考え自分の意見を持つことができる。(思考・判断・表現) ・太平洋戦争の開戦までの経緯を理解する。(知識・理解)
8	○太平洋戦争2 ・戦時下の人々の暮らしについて	・資料から当時の人の心情を読み取ることができる。(資料活用) ・戦時中に行った日本の政策について理解する。(知識・理解)
9	○戦争の終結 ・戦争の終結までの経緯について ・日本の降伏について	・戦争終結までの経緯を理解する。(知識・理解) ・日本の降伏の様子を理解し、戦争という社会的事象に対して自分の意見を持つことができる。(思考・判断・表現)

4. 本時の目標と展開

(1)本時の目標

- ・第二次世界大戦(ヨーロッパ戦線)開戦の理由について各国の立場をもとに考えまとめることができる。(思考・判断・表現)
- ・班の話し合い活動に積極的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)

(2)本時の展開 (4/9)

過程	時配	学習内容と活動	教師の指導と支援及び留意点	評価の観点◆ 評価方法◎
導入	4	○第二次世界大戦の映像資料を見せ第二次世界大戦が悲惨な戦争だったことに気づかせる。	○第二次世界大戦の映像資料を見せる。	
なぜ第二次世界大戦は起きてしまったのだろう				
	5	○ 各国の経済復興の政策と立場について確認する。	概略を発表させ各国の立場をつかませる。	
展開	15	<p>○ 前時までにまとめた資料と各班の発表を基に開戦の理由をグループごとに事前に調べた国の立場で考える。</p> <p>※イギリス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック経済でヨーロッパ大陸から距離を置いていたけれどドイツの侵略をこれ以上許せない。 ・ここで食い止めないと自分の国にも被害が来るから。 <p>※フランス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポーランドを守らないといけないから ・これ以上ドイツの好きにさせてはいけない。 ・自分の国も危ないから <p>※ソ連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポーランドを取られると次は自分の番だから ・不可侵条約があるから攻めてはこないはず ・自分たちの力で立ち直ったのにじゃまされたくない 	<p>○机間指導を行いヒントカードを配り、話し合いが深まるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントカードは、どんな視点で話し合うと良いかをその場で明記して配付する。 ・思考、話し合いが止まってしまっているグループには直接助言する。 ・机間指導を行い、ホワイトボードを使ってまとめる時の言葉を助言する。 	<p>◆話し合い活動に積極的に参加しているか。 (関心・意欲・態度)</p> <p>◎机間指導を行い話し合い活動に参加している様子を観察する。</p> <p>◆第二次世界大戦の起きた理由について自分なりの考えを持つ事ができたか。(思考・判断・表現)</p> <p>◎机間指導でノート内容を見る。</p> <p>◎授業後のノートで見る</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・スターリンが怖いから <p>※イタリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツとの協力体制があるから強気だった。 ・侵略しなければ経済が立ち直らなかったから ・ムッソリーニの勢いがすごかったから <p>※ドイツ(国の動きグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの国に勝てると思ったから ・次々に領地の拡大ができていたからもっと欲しかったから ・勢いが止まらなかった。 <p>※ドイツ(ヒトラーグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対なる権力者が出てきて国民が止まらなくなったから ・ヒトラーの魅力に国全体が動かされたから 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループの発表を補助する。 ・どの資料から読み取ったのかななどを助言する ・机間指導で確認した生徒が発言していない場合は、意図的に指名をする。 ・ 	<p>◆各国の立場を考えながらまとめられているか。</p> <p>◎グループの発表を聞く。</p>
18	<p>○第二次世界大戦が開戦してしまった理由を班ごとに発表する。</p> <p>※イギリス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポーランドを守るために戦争をするしかなかった ・自分の国にも被害がくると思ったから <p>※フランス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの侵攻を食い止めないと自分の国も危ないから。 <p>※ソ連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポーランドが侵略されると次は自分の国が危ないから 		

		<p>※イタリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツと協力すれば戦争に勝てると思ったから ・戦争に勝つしか経済復興をすることができなかったから <p>※ドイツ(国の動きグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・侵略するしか経済復興ができなかったから ・ヒトラーに逆らえなかったから <p>※ドイツ(ヒトラーグループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒトラーに逆らえなかったから ・ヒトラーに国民が洗脳されたから 		
	3	<p>○各国は戦争をすることを望んでいたのかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・望んではない ・しかたがなかった ・反対だった ・止められなかった 	<p>○生徒の意見から戦争に対しての各国の考えをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各国は戦争をしなくなかったのではないかということに気づかせる。 	<p>◆各国の立場で戦争について考えることができたか</p> <p>◎発表を聞く</p>
ま と め	5	<p>○まとめ</p> <p>なぜ起きてしまったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕方がなかった ・止められなかった ・どの国も自分の国を守るためだった ・自分の国が大事だった 	<p>○なぜ起きてしまったのかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自国第一主義から起こってしまっていることに気づかせる。 ・ノートに自分の考えを書かせる。 ・自国第一主義の考え方が第二次世界大戦につながってしまったことをつかませる 	<p>◆各国の立場で第二次世界大戦が起こった理由について考えることができたか</p> <p>◎発表を聞く</p> <p>◎授業後のノートを見る</p>

(3)評価

- ・第二次世界大戦の開戦の理由を理解することで社会的事象を多角的・多面的に考察し判断しようとすることができたか。(思考・判断・表現)
- ・グループの活動に積極的に参加し、自分の意見を表現することができたか。(関心・意欲・態度)